

らしみさらダボール子育て情報



「小さな芽が育つとき」

令和6年5月15日号

板橋富士見幼稚園



子どもの成長を言葉で支えて

子どもが言葉を使えるようになるためには、大人から学ばなければなりません。言葉を自分のものにするために、一生懸命同じ言葉を繰り返したり、「何しているの」としきりに尋ねてきたりします。

言葉は、語り合う相手がいて初めて学習することができます。幼児期は言葉で語り合うことをお勧めします。

最近は「語り合う」ではなく、「語られる言葉を聞く」受け身がとても多くなったような気がします。子ども達は、言葉を語り合いながら確実に学習していきます。

例えば読み聞かせも、親が語る語りと、テレビやスマホなどの動画の語りでは、学びの深さが違ってきます。それは、親の感情が絵本の物語を語るからです。

情報機器の絵本の語りでは、言葉を聴くだけで、その心の語りがその子に届かないことが多く、また思い巡らせる時間や立ち止まる時間、そして聞き返したりする場面などの行きつ戻りつがないので、言葉を学習していく機会が少ないと言われます。

幼児期は、生きた言葉が語り合うことこそが、子どもが求める絵本なのです。

生活の言葉は、生活の中から、人を介して学習されていくものです。

「ねえ、ねえ、ママ・・・」と言われたときは、笑顔で「なんででしょうか」「何かご用ですか」と返してみてください。子どもに笑顔で、「あのね、」と呼びかけられた時は、言葉を学びたい時だと思いき、語り返してあげてください。感情豊かな子どもに育てられることと思います。人間にとって幼児期は、人同士の生きた言葉が必要なのです。そのうち、恥ずかしくなるほど、親の癖まで覚えてくれますよ。楽しみですね。

【夏野菜の苗植え】

年長さんが夏野菜の苗を植えました。
トマトやピーマン、ナス、キュウリ…
たくさんの苗を優しく植えて、
名前が分かるように看板をつくり
ました。美味しい野菜がたくさん
実るように大切に育てていきます。

